

## 「岩手県の中堅助産師を対象とした派遣型の『助産実践能力強化研修』の実施と評価」

福島裕子（看護学部、教授）、野口恭子（看護学部、准教授）、アンガホッフア司寿子（看護学部、講師）  
金谷掌子（看護学部、講師）、後藤仁子（看護学部、助教）、木地谷祐子（看護学部、助教）、  
大黒屋安由子（看護学部、助手）、蛎崎奈津子（前看護学部、准教授）

### <要旨>

本研究では県内の中堅助産師を対象に、県内初の派遣型・実践型の「助産実践能力強化研修」を実施した。これまで県内32名の助産師が県内外の先進的な取り組みをしている施設で研修を行った。研修に参加した助産師全員が研修成果を職場へ還元できており、勤務施設とは異なる環境で中堅助産師が実践的に研修をする事は、これまで培ってきた経験知や価値観を変容させ職場に還元できる効果があると示唆された。

## 1 研究の概要

産婦人科医師不足による出産場所の減少や集約化による産科医療の質の地域格差が全国的に問題となり、岩手県においても10年ほど前から助産外来や院内助産システムなどの取組みが始まっている。助産師が助産外来や院内助産システムで自立/自律して助産診断・助産ケアを行うためには、経験で培ってきた実践能力だけでなく、その能力をさらに強化するための教育・研修システムが重要となる。

そこで、本研究では、臨床経験5年以上の助産師を対象とした「助産実践能力強化研修」を平成22年度から企画・実施し、その効果を評価した。

## 2 研究の内容

### 1) 「助産実践能力強化研修」の企画

本研究の「助産実践能力強化研修」の特徴は、①臨床経験5年以上の中堅助産師を対象としたこと、②受講者が自らの研修目的を明確にして臨むこと、③研修目的達成のために本人の希望する県内外の先進的な取り組みを行う施設で実践的に学ぶ研修としたこと、④研修の学びを実践現場に還元する事までを研修項目としたこと、⑤結団式や実践型研修後2回の報告会を実施することで研修者同士の交流・連携を深める工夫をしたこと、であった。

本研修は、受動的に知識や技術を取得するのではなく、既に十分な知識や技術を備えている助産師のさらなる自信を強化するため、事前に職場の課題や自身の研修目的、学びを職場へどう還元するかを提出してもらった。さらに職場上司からの推薦書を提出してもらい、それにより、研修生自身のモチベーションが維持され、研修で得たことが個人の学びで終始せず、現場に還元されやすいよう工夫をした。結団式から派遣研修、職場還元の実施、報告会までのすべての期間は6カ月ほどとなる。

派遣による実践型・体験型の研修としたことや学びを職場へ還元することまでを研修としたことは、これまでの岩手県にはない新しい取り組みであった。

### 2) 研修の実施

毎年研修実施要項を作成し、県内周産期医療施設へ配

布して希望者を募り、受講生の研修希望施設との調整を行いながら、研修を実施した。平成22年から平成28年までに県内助産師32名の助産師が研修に参加し、県内1施設、県外5施設で各自が実践的な研修を行った。

### 3) 研修の評価

研修生に対する質問紙調査と面接調査、および研修受講生の記述報告や感想、研修目的の到達度より、研修成果を評価した。

### 3 これまで得られた研究の成果

研修に参加した助産師たちは、県外の先進的な取り組みをしている施設で研修をする事で、助産師である自分の考えや価値観を揺さぶられ、研修先の施設の取り組みに羨ましさとジレンマを感じながらも、自分の施設でできることを考えるという経験をしていた。中堅助産師が、普段勤務している施設とは異なる環境で実践的に研修をする事は、これまで培ってきた経験知や価値観を変容させ、未来に向けて広げる可能性があることが示唆された。

また、研修に参加した助産師のほぼ全員が、研修成果を職場へ還元できており、その内容も“研修の伝達講習会”や“業務改善”“勉強会の企画と実施”“保健指導媒体の作成”“新たな助産ケアの導入”など多岐にわたっていた。特に、毎年研修に助産師を送り出している施設ほど、職場での新たな取り組み内容が多く、その実践も継続されていた。同じ研修経験を持つ仲間が自施設にいる方が、お互いが理解しあい、共通目標を持てるため、研修成果の還元が継続されやすいといえる。

以上より、これまで岩手県で実施されてきた「助産実践能力強化研修」は、助産師個人の資質向上はもちろん、学びを職場に還元しようという意欲の向上、そして、学宿場への何らかの形ある成果還元として実践活動につながる研修となっていたと評価できる。

### 4 今後の具体的な展開

この研修が開始してから、産科の混合病棟化や助産師不足など、岩手県の周産期医療の現状はさらに変化してきている。現在の県内助産師のニーズを把握しながら、県内助産師の専門性向上や継続教育研修など、大学としての新たな取り組みを検討していく予定である。